

# 教育研究業績書

2019年5月1日

氏名：直井 崇

学位：博士（メディアデザイン学）

研究分野

研究内容のキーワード

教育学, 芸術学, デザイン学

造形・図画工作教育, デザイン思考, 絵画

主要担当授業科目

基礎造形Ⅰ, 基礎造形Ⅱ, 図画工作科指導法, 造形演習A, 造形演習B,  
課題研究A, 課題研究B, 保育内容研究(表現), 総合表現

教育上の能力に関する事項

事項	年月日	概要
<b>1 教育方法の実践例</b>		
(1) プラネタリウムを活用したセンス・オブ・ワンダーを育む実践。	平成26年7月	<p>玉川大学教育学部での実践。学生の中には美術に対して苦手意識を持っている者が少なくないことを意識し、配慮している。授業では造形・図画工作に関する事柄の伝達と共に、造形・図画工作に対する苦手意識を少しでも軽減させることが課題であると考えている。</p> <p>上記の事柄を実践するにあたり、学生に対して“sense of wonder”について理解をしてほしいと考えている。そこで、どの様に指導を行うのがより効果的かについて試行錯誤していたところ、学内にあるプラネタリウムに着目をした。プラネタリウムを活用した授業を行ったところ高い理解が得られた。</p>
(2) デザイン思考を活用したアクティブラーニングの実践。	平成26・27・28・29・30年度	<p>玉川大学教育学部, 帝京平成大学現代ライフ学部児童学科, 東京成徳大学子ども学部での実践。学生の能動的な学修への参加を取り入れるため、デザイン思考を活用したアクティブラーニングの授業を行った。「ポスター制作」を課題にし、学生がグループでブレインストーミングやフィールドワーク、ポスター制作、プレゼンテーションを行った。</p>
<b>2 作成した教科書・教材</b>		
田澤里喜編「保育・幼児教育シリーズ 表現の指導法」玉川大学出版部	平成26年7月	<p>筆者は、表現領域の造形分野内の、用具に関する内容を述べた。全185頁。87-89頁担当。</p>
<b>3 当該教員の教育上の実績に関する大学等の評価</b>		
学生による授業評価アンケート結果	平成24年度から現在に至る	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆玉川大学教育学部において実施された学生による授業評価アンケートに関して、質問項目の多くが平均値を上回る高い評価を受けている。</li> <li>◆横浜国立大学教育人間科学部において実施された学生による授業評価アンケートに関して、質問項目の多くが平均値を上回る高い評価を受けている。</li> <li>◆帝京平成大学現代ライフ学部児童学科において実施された学生による授業評価アンケートに関して、質問項目の多くが平均値を上回る高い評価を受けている。</li> <li>◆東京成徳大学子ども学部において実施された学生による授業評価アンケートに関して、質問項目の多くが高い評価を受けている。</li> </ul>
<b>4 実務の経験を有する者についての特</b>		

記事項 なし		
5 その他 「第7回キッズデザイン賞」(キッズデザイン協議会主催) キッズデザイン賞受賞(調査・研究、リサーチ分野)、(感性・創造性部門)	平成25年7月	受賞作品:「Re:Pale」 児童が図画工作科から気持ちが離れる因子を少しでも減らしたいと考え、児童が図画工作科に取り組む様子を丁寧に観察した。その結果、児童が使う水彩用パレットのデザインに問題点が確認された。児童が使う水彩用パレットに、どの様な問題点があるのかを調査し、児童により適したデザインの水彩用パレットを提供したいと考えた。
東京成徳大学子ども学部手作り絵本コンクール	平成29年度～30年度	東京成徳大学子ども学部の入試広報関連行事として、高校生および本学生を対象とした手作り絵本コンクールの企画、運営、審査、絵本教室の講師などを務めた。
平成30年度 東京成徳大学十条台キャンパス 免許状更新講習 講師	平成30年6月	下記の内容にて免許状更新講習の講師を担当した。 「造形の道具箱 ～発想力の向上を目指して～」 講習では、発想力の向上を目指した学びに取り組んだ。発想するための方法について具体的事例を通して学び、日頃の発想に役立てる方法について講義や演習・制作などを行った。
東京成徳大学子ども学部 公開講座 講師	平成30年12月	下記の内容にて公開講座の講師を担当した。 「世界の子どもと子どもの絵」 講義と制作の2部構成の講座を穴澤秀隆氏と行った。前半は世界児童画展の絵を基に講義を行い、後半は世界児童画展の絵を基にカレンダー制作や鑑賞活動を行った。筆者は主に後半の制作を担当した。
職務上の実績に関する事項	年 月 日	概 要
事 項	年月日	概 要
1 資格, 免許		
中学校教諭一種免許状(美術)	平成17年3月	授与機関:東京都教育委員会
高等学校教諭一種免許状(美術)	平成17年3月	授与機関:東京都教育委員会
中学校教諭専修免許状(美術)	平成20年3月	授与機関:東京都教育委員会
高等学校教諭専修免許状(美術)	平成20年3月	授与機関:東京都教育委員会
2 特許等 なし		
3 実務の経験を有する者についての特記事項 なし		
4 その他 なし		

著書・学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
1, 保育・幼児教育シリーズ 表現の指導法	分担執筆	平成26年7月	【編者】 田澤里喜 【発行】 玉川大学出版部	筆者は、表現領域の造形分野内の、用具に関する内容を述べた。 全185頁。87-89頁担当(第4章2節4 造形用具の扱い)。 【共著執筆(掲載順)】 田澤里喜, 花輪充, 石川秀香, 佐藤早, 飯塚奈央子, 朝日公哉, 西井宏之, 佐藤愛, 直井崇, 藤田寿伸, 竹本由美子, 押切道子, 二木秀幸, 荻野貴大 (再掲)
(学術論文)				
1, 図画工作科・美術科におけるコミュニケーションの重要性 -「コミュニケーション」に着目をした図画工作科・美術科指導法の一分析(査読付き)	単著	平成20年3月	東京学芸大学大学院 教育学研究科 平成7年度修了論文 全52頁。	(説明) 子どもにとって、快い図画工作科指導法を考察するため、実践報告等の研究論文を「コミュニケーション」を切り口に分析した論文。 子どもにとって、快い授業を展開するには、子どもとの良い人間関係を構築し、適材適所に置けるコミュニケーションが重要と考える。
2, 造形・図工活動における導入時のショートエクササイズの開発と実践研究(査読付き)	共著	平成22年3月	美術科教育学会誌『美術教育学』第31号。 全12頁。7-11頁担当。	【分担】 山田一美(東京学芸大学教育学部教授)と森尻有貴(お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科博士後期課程)との共著(肩書は当時のもの)。 6章及び7章(pp. 7-11.)担当。 【説明】 指導者と子どもが身体感覚を生かしてコミュニケーションをとり、リラックスして造形・図画工作活動を展開するための身体的アプローチを開発・評価した。実践評価の結果、エクササイズを効果的に実施することによって、好ましい授業環境を形成されることが確認できた。
3, 図画工作科における心象表現の研究 -授業実践「夢を入れる器を作ろう」を通して-(査読付き)	単著	平成22年3月	日本美術教育研究論集 第43号。全8頁。	児童が制作した作品から、児童の心象表現の可能性を見出し、分析を試みた。
4, デジタルメディア機器を活用した図画工作科嫌いを防ぐ一考察(査読付き)	単著	平成24年3月	日本美術教育研究論集 第45号。全8頁。	筆者は図画工作科離れの防止のための試行錯誤を行ってきた。その一つに、デジタルメディアの活用が挙げられる。本研究では、デジタルメディアの可能性の考察を行う。 デジタルメディアの活用を通して、多くの児童が絵の楽しさ実感し、図画工作科への興味・関心を示して図画工作離れの防止の一助となった。
5, 児童が使用する水彩用パレットのリ・デザイン研究(査読付き)	単著	平成25年3月	日本美術教育研究論集 第46号。全8頁。	本研究論文は、児童が図画工作科において扱う水彩用パレットのリ・デザインに向けた基礎研究である。 筆者は、図画工作科における児童への水彩

				<p>指導について頭を悩ませていた。</p> <p>そこで、着眼点を水彩用具へと変えた。児童が水彩用具を扱う様子を、観察及びインタビューした結果、児童用の水彩パレットのデザインが児童の実態に適していないことが確認された。</p>
<p>6, 児童が使用する水彩パレットのリ・デザイン(査読付き)</p>	<p>単著</p>	<p>平成26年2月</p>	<p>慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科博士号(メディアデザイン学) 論文</p>	<p>Re:Pale は図画工作科にて児童が使用するパレットである。このRe:Pale は児童が図画工作科にて使用している現在主流のパレットをリ・デザインしたパレットである。</p> <p>本研究で開発したRe:Pale は、児童に絵を楽しむ心を教えるパレットである。本研究では、児童が絵を描くことを楽しむことの阻害要因としてパレットの使いづらさに着目し、既存のパレットの問題点を洗い出し、その結果を踏まえて、児童にとっていろいろな使い方を見付けることができ、より使いやすいパレットになるよう、Re:Pale を設計し、制作を行った。</p> <p>図画工作科での水彩絵の具による制作を観察したところ、パレットを上手く使うことができずにいる児童が確認された。そこで何故パレットを上手く使うことができないのかを調査するため、児童がパレットを使う様子に着目をして調査を行った。調査を行ったところ、パレットの形状に児童が使用する上での問題点が確認された。そこで既存のパレットの問題点を解決すべく、児童にとって適切なパレットの部屋の数や大きさを調査した。調査したデータを踏まえてプロトタイプ制作を繰り返し行うことによって、既存のパレットの問題点を解決したRe:Pale が完成した。検証のためRe:Pale を図画工作科の授業で児童が使ったところ、Re:Pale は児童に絵を楽しむ心を教えるパレットであることが検証された。</p> <p>尚、Re:Pale の名前の由来は、歴史的にみて大きな形状変化がみられない児童用水彩パレットをリ・デザインしたため、「redesign」された「palette」のそれぞれの頭文字をとった。そして、このパレットを使用した児童に絵の楽しさを送りたい(児童への返信)という願いを込めて、手紙やメールなどでの返信表記として用いられる「Re:」を掛け合わせて「Re:Pale」と名付けた。</p>

7, 幼稚園教員及び小学校教員を目指す学生に対して「センス・オブ・ワンダー」の理解を高める実践研究(査読付き)	単著	平成27年3月	日本美術教育研究論集 第47号	<p>筆者は教員養成系学部において、幼稚園・小学校教員を目指す学生に対して造形・図画工作に関する授業を担当している。授業を行うにあたっては、学生の中には美術に対して苦手意識を持っている者が少なくないことを意識し、配慮している。授業では造形・図画工作に関する事柄の伝達と共に、造形・図画工作に対する苦手意識を少しでも軽減させることが課題であると考えている。</p> <p>上記の事柄を実践するにあたり、学生に対して“sense of wonder”について理解をしてほしいと考えている。そこで、どの様に指導を行うのがより効果的かについて試行錯誤していたところ、学内にあるプラネタリウムに着目をした。プラネタリウムを活用した授業を行ったところ高い理解が得られた。</p> <p>また学内及び学会関係者からも関心を集め、口頭発表及び論文発表を行なった。</p>
8, 保育士及び幼稚園・教員養成系学部におけるデザイン思考を活用した研究(査読付き)	単著	平成30年3月	日本美術教育研究論集 第51号	<p>筆者は教員養成系学部にて、保育士や幼稚園・小学校教員を目指す学生に対して、造形や図画工作に関する授業を担当している。</p> <p>上記の日々の中で、学生がアイディアなどの「発想」に対して苦手意識を抱えていることに気が付いた。そこでデザイン思考を活用したポスター制作を行ったところ、学生の「発想」に対する考え方の変容が確認された。</p>
(講義録)				
1, 平成30年度東京成徳大学子ども学部公開講座「子どもの絵からつくる」	分担執筆	平成31年3月	東京成徳大学 子ども学部紀要 第9号	<p>東京成徳大学子ども学部公開講座の講義録(報告書)。講義と制作の2部構成の講座を穴澤秀隆氏と行った。</p> <p>本書では、筆者が主に担当した後半の制作について執筆した。79頁執筆。</p>
(雑誌)				
1, 自分の住みたい星を描こうー未知の世界・人々を意識してー	分担執筆	平成21年10月掲載	財団法人教育美術振興会『教育美術』10月号。	<p>小学校での授業実践及び、9カ国の子どもが皆既日食を通し、交流を行ったイベント(UNESCO認定イベント)に関する報告。皆既日食をヒントに、「自分の住みたい星を描こう」というテーマのもと、児童に絵を描いてもらった。22-28頁執筆。</p>
2, 教師の仕事 ～図工・美術編ー授業実践の背景ー	分担執筆	平成22年7年	財団法人教育美術振興会『教育美術』7月号。	<p>図工・美術の教師は、どのようにして題材をみつけてくるのか等、図工・美術教師の仕事についての記述。37頁執筆。</p>
(口頭発表)				
1, 造形・図工活動における導入時のショート・エクササイズの開発と実践評価	共同	平成21年3月27日～29日	第31回美術科教育学会佐賀大会	(分担)山田一美(東京学芸大学大学院教育学研究科美術教育専攻教授)と森尻有貴(お茶の水女子大学大学院後期博士課程学生)との共同研究

				で発表を行う。(肩書は当時のもの) (説明)造形・図工時導入時に活用できるエクササイズの開発と実践評価を行った。
2, 図画工作科における心象表現の研究ー授業実践「夢を入れる器を作ろう」を通してー	単独	平成21年10月18日	第43回日本美術教育研究発表会 会場：筑波大学大塚分館	児童が制作した作品から、児童の心象表現の可能性を見出し、分析を試みた。
3, デジタルメディアを取り入れた授業の一考察	単独	平成23年10月16日	第45回日本美術教育研究発表会2011 会場：東京家政大学	筆者は図画工作科離れの防止のための試行錯誤を行ってきた。その一つに、デジタルメディアの活用が挙げられる。本研究では、デジタルメディアの可能性の考察を行う。 デジタルメディアの活用を通して、多くの児童が絵の楽しさ実感し、図画工作科への興味・関心を示して図画工作離れの防止の一助となった。
4, 児童が使用する水彩用パレットのり・デザイン研究	単独	平成24年10月14日	第46回日本美術教育研究発表会2012 会場：東京家政大学	本研究論文は、児童が図画工作科において扱う水彩用パレットのり・デザインに向けた基礎研究である。 筆者は、図画工作科における児童への水彩指導について頭を悩ませていた。 そこで、着眼点を水彩用具へと変えた。児童が水彩用具を扱う様子を、観察及びインタビューした結果、児童用の水彩パレットのデザインが児童の実態に適していないことが確認された。
5, 教員養成系学部における実践研究	単独	平成26年10月19日	第48回日本美術教育研究発表会2014 会場：東京家政大学	筆者は教員養成系学部において、幼稚園・小学校教員を目指す学生に対して造形・図画工作に関する授業を担当している。授業を行うにあたっては、学生の中には美術に対して苦手意識を持っている者が少なくないことを意識し、配慮している。授業では造形・図画工作に関する事柄の伝達と共に、造形・図画工作に対する苦手意識を少しでも軽減させることが課題であると考えている。 上記の事柄を実践するにあたり、学生に対して“sense of wonder”について理解をしてほしいと考えている。そこで、どの様に指導を行うのがより効果的かについて試行錯誤していたところ、学内にあるプラネタリウムに着目をした。プラネタリウムを活用した授業を行ったところ高い理解が得られた。 また学内及び学会関係者からも関心を集め、口頭発表及び論文発表を行なった。
6, 保育士及び幼稚園・教員養成系学部におけるデザイン思考を活用した研究	単独	平成29年	第51回日本美術教育研究発表会2017 会場：東京家政大学	筆者は教員養成系学部にて、保育士や幼稚園・小学校教員を目指す学生に対して、造形や図画工作に関する授業を担当している。 上記の日々の中で、学生がアイディアなどの

				「発想」に対して苦手意識を抱えていることに気が付いた。そこでデザイン思考を活用したポスター制作を行ったところ、学生の「発想」に対する考え方の変容が確認された。
(作品)				
1, 「アトリエ」	単独	平成11年8月	第49回学展(毎日新聞社・日本学生油絵会主催)	(説明) 作品サイズ162, 1×130, 3cm 油彩画。アトリエにある石膏像を自身に見立てた心象表現作品。入賞受賞。
2, 「時を超えて」	単独	平成12年1月	第27回東京私立中学高等学校写真・美術展	(説明) 作品サイズ90, 9×72, 7cm 油彩画。牛骨を描いた静物作品。静寂さを表現した作品。特選受賞。
3, 「時を超えて」	単独	平成12年8月	第50回学展(毎日新聞社・日本学生油絵会主催)	(説明) 作品サイズ162, 1×130, 3cm 油彩画。アトリエにある石膏像を自身に見立てた心象表現作品。入賞受賞。
4, 「誠志」	単独	平成15年12月	第29回全国大学版画展	(説明) 作品サイズ46×29, 7cm 銅版画。心象作品。自身の志を表現した作品。
5, 「誠志」	単独	平成16年12月	第30回全国大学版画展	(説明) 作品サイズ46×29, 7cm 銅版画。星空を描いた心象作品。自身の志を表現した作品。